

平成16年10月期 第三級海上特殊無線技士 試験問題

無線工学

1. 電離層波は、大地や海面に沿って伝わる。
2. 搬送波には、音声周波数より低い周波数を用いる。
3. 電圧の単位はボルト、電流の単位はアンペアを用いる。
4. DSB方式の無線電話装置は、プレストークボタンを押しても送話を始めなければ電波は放射されない。
5. 無線電話装置の電源ヒューズは、切れないように十分太いものを使用すればよい。
6. 1.5ボルトの電池を4個直列に接続すると、6ボルトの電圧が取り出せる。
7. 無線電話装置の「感度」つまみは、受信電波の強弱に応じて調整するとき使用する。
8. 給電線とは、送受信機を接地（アース）するための導線のことをいう。
9. 超短波は、光に似た性質をもっているので見通し距離内の通信に適している。
10. 船舶用レーダーは、アンテナ位置が海面より高いほど探知距離は伸びるが、探知のできない死角範囲も広がる。